

事業所名

ほーパデイサービスセンター

支援プログラム（参考様式）

作成日

R6

年

6 月

1 日

法人（事業所）理念		障害がある子供たちも健常児と同様に放課後や休日に伸びのびと活動でき、地域の一員として地域に根ざした生活が出来るよう支援を行う。							
支援方針		5年、10年先を見据えて手法にこだわる事なく、個々の性格や時々の状態により支援方法を検討し、必要なものを取り入れながら子供達が成長出来るよう積み重ねの支援を行う。タブレットや電子機器を使わずアナログで落ち着いた活動が出来るよう支援する。							
営業時間		平日	16時	20分から	18時	0分まで	送迎実施の有無	あり	なし
		学校休業日	10時	0分から	15時	0分まで			
支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	・安全で落ち着いた生活を送って頂くよう、職員を固定しレイアウトもなるべく変えなしようにしている。利用も曜日で固定し活動内容も変化の少ないスケジュールにしている。毎回、来所時での検温、消毒、外出から戻っての手洗い消毒、外出から戻っての手洗い消毒、定時の給水、トイレ誘導を行う。また、外出から戻っての人数、状態確認も行う。							
	運動・感覚	・毎回30～50分の外での活動を取り入れ、体を動かす事による情緒の安定、ストレス発散を行う。平均台、ジャングルジム、ブランコ等でのバランス感覚。球技、鬼ごっこ、縄跳び等での手足の使い方、呼応、協調運動。また視覚、聴覚感覚への対策として光量調節やイヤマフ、耳栓の使用を行う。							
	認知・行動	・認知能力の向上を目指し毎回パズルによる形状認識の練習を行い、難易度も変えていく。また数量、時刻、カレンダー作り、折り紙、貼り絵、はさみを使った切り抜き等で認知能力を高める。毎月の季節の工作で季節感を育てる。							
	言語 コミュニケーション	・子どもたち同士が関わり合えることが1番大切だと考えています。始まりの会、終わりの会の司会や本の読み聞かせの発表等による成功体験を積み、積極的に子どもたち同士が関われるよう工夫しています。また個別で文字、言葉の練習も行う。							
	人間関係 社会性	・地域で生活する上で地域との関わりは重要と考え、毎回地域の公園に出掛けて地域の子どもたちと一緒に関わるようにしている。またトランプ、ウノ、黒ひげゲーム等ルールのある遊びを集団で行い、ルールや順番など社会生活に必要なスキルを身に付けて頂く。							
家族支援		不安や悩みなどは随時、面談や電話で相談を受け付けている。支援内容は面談の上、保護者の方の希望等を取り入れるようにしている。				移行支援		高校卒業時に向けた作業に関わる練習（手先作業）は高2時点より行っている。	
地域支援・地域連携		子ども療育センター、相談支援事業所、東区社会福祉協議会と連絡をとりながら支援に繋げている。				職員の質の向上		毎月全体会議、事業所会議を行い、支援の反省、問題点を話し合い技術向上を行っている。強度行動障害支援養成研修等の受講。	
主な行事等		クッキング、遠足、川遊び、クリスマス会、季節の工作作り、保護者面談、36項目アセスメント（年1回）							